

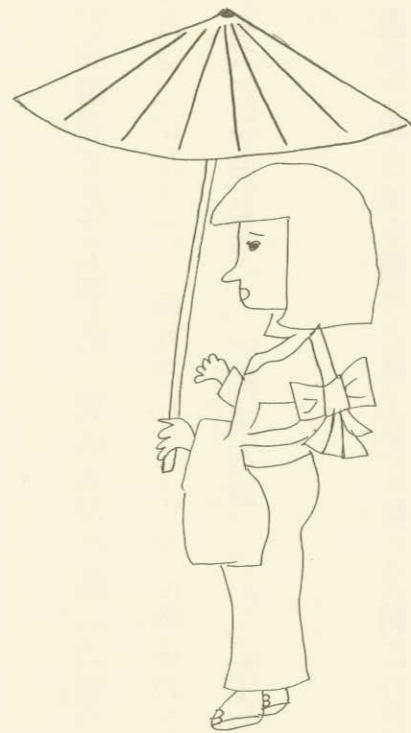
服間の親類に着いて、土産を渡そうとしたら魚がない。
キツネにしてやられたとしか思えんと。

今度はちょっとこわい話やでエ。むかし
次郎平さんという大工がおつての。赤坂に
仕事にかよっていた時、何べんもキツネに騙
されていたんやと。

ある雨の晩方、仕事帰りに傘をさした娘に声をかけられた。

「暗うなってしもつておとろしい。どうぞ一緒に帰っておくんはない。」と。

二人つれだつて大川を渡るときに、娘はチャピンチャピンとほんの小さな足音しかさせんのや。
こいつはキツネや、もう騙されんぞと大工は仕事道具のみで後ろから娘を突いた。キツネは逃
げて、はさ場のかげで死んだが、虫の息で「これから七代かかってお前の家を亡ぼしてやる。」
とつぶやいたそうや。



55 お地藏さん

まるい頭に穏やかなお顔のお地藏さんは、とても親
しみ深い仏さまだ。山あり、谷ありの河和田には、峠
や道端、しょうずにと大勢いらつしやる。



寺中の悦相院(時宗)と尾花の長禅寺(禅宗)では
六体揃った六地藏さんが参詣者を出迎えてくださる。

人間は、あの世で地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上の六道のどれかに生まれ変わる。それぞ
れの世界にいて、我々を導いてくださるのだ。

筋生田の辻堂さんのお地藏さんは、真っ白いお顔に極彩色の衣装をまとうていらつしやる。七月
二十三日の地藏まつりにお目にかかれるのだ。

寺中には、経石が土の中から沢山出たので建てられた法華経供養のお地藏さんが、さんまいの
入り口に。

その昔、別司から小坂（河和田町）へは、平和塔のあたりの小山を越えて行く道しかなかった。坂道の頂上におられたお地藏さんは、よく願いをかなえてくださるので、願かけする人が多かった。ある時、

「今夜はぜひとも博打に勝たせてください。」

と、お願いした男がいた。男は勝つにつれて欲が出て、おしまいには負けて丸裸。帰り道で腹を立てて、お地藏さんを窪地に投げ捨ててしまった。

何十年かたって、新しい村道ができたとき、清兵衛さんが自分の畑に北向きに安置した。願掛けして毎日お参りした人も多かったが、今はバイパス沿いに移されて、西向きに両手を合わせていらつしやる。

山を登りつめて、やれやれと一休みする峠には決まって二体三体と並んで、道中の安全を願って立っていらつしやる。上河内から服間にぬける清根坂の峠のお地藏さんは、待地藏という。河和田の谷と服間の谷とは縁結びが多かったので、里帰りした花嫁が無事もぐるように祈っておられるとか。

また水掛けの地藏さんが荒谷と三ツ又谷の分かれ道で道を教えていらつしやる。地元ではわかれの地藏さんとも呼んでいるが、平成十六年夏の豪雨禍の後、砂防工事が始まっていて、しばらく他所にお移りいただくかも。

こんこんと湧くしようずにはきまってお地藏さんがまつられている。

個人の願いでたてられたものも、数体ある。いつも一番身近にあって、我々に救いの手をさしのべ、日々の暮らしを支えてくださっているのだ。

⑤6 ムジナも化けた

人を化かすのはキツネやタヌキばかりではない。ムジナも隅に置けない存在だ。

まだ電気も汽車もなかったころ、小坂のやじべいさんの家の外でパンパンと合羽をはらう音がしび、しびらん、